

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	三遠南信地域及び中京圏との交流推進事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	企画部	課等名	三遠南信交流・リニア推進		包含する細々目	1	2	1	9	11	6	720
政策	8 交流と連携が活力を生むまちづくり											
施策	82 三遠南信・中京圏の連携推進											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議	不要	関連計画条例等						
		事業期間		年度～	年度							

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	市民	飯田市の人口(人) (H18.10.1推計人口)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度	23年度以前に終了は終了年度とする	
			107844		107000	
			現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		
意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)				
遠州・東三河地域及び中京圏との交流が活発化する。	三遠南信・中京圏との交流に参加している市民の割合	18目標	最終目標			
		18実績	19目標		↑	
		23目標	23実績	10	最終目標達成年度	
		18目標	最終目標			
		18実績	19目標		↑	
		23目標	23実績		最終目標達成年度	

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	歴史・文化的につながりの深い遠州・東三河地域や中京圏との人・物・情報の交流を促進する事業。 また、住民や住民団体の交流を推進するための支援を行う事業。 * 国では道州制の導入に向けた区域案が示される中、南信州地域が将来にわたり持続発展していくためには、三遠南信の枠組みが非常に重要であり、より積極的な交流活動、具体的な連携事業を行っていく。	18年度の実績 ・三遠南信サミットin豊橋への参加支援 ・三遠南信地域交流ネットワーク会議への参加 ・三遠南信地域整備連絡会議への参加 ・三遠南信地域への情報発信(地域資源や活動のPR) ・市民交流事業の推進(市民活動の支援・参画、共同学習会の開催等)	市が支援した回数 会議参加回数 会議参加回数 HPへの情報提供回数 市民交流事業支援数	3 8 3 5 4
	19年度計画	・三遠南信地域への情報発信(地域資源や活動のPR) ・市民交流事業の推進(市民活動の支援・参画、共同学習会の開催等) ・三遠南信地域交流ネットワーク会議への参加 ・三遠南信地域整備連絡会議への参加	HPへの情報提供回数 市民交流事業支援数 会議参加回数 会議参加回数	

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他		
	一般財源	102	129
	事業費計(A)	102	129
人件費	正規職員所要時間	18年度 40	19年度
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	143	0
	トータルコストA+B	245	129

特定財源内訳や補足事項	
-------------	--

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	三遠南信・中京圏と共通の課題を認識する協力し補完しあう	都市間交流に参加している市民の割合(三遠南信・中京圏)(%)	現状値	8.5	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	10
		三遠南信・中京圏との連携や交流が重要だと思う市民の割合	現状値	74.2	19実績	
			20実績		21実績	
		22実績		23目標	80	

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
<p>もともと、遠州・東三河地域とは川の流域を通じた歴史的、文化的な交流があり、地域固有の文化や物・人・情報のネットワークが歴史的に形づくられてきた。また、中京圏とも同様に、歴史的背景や高速道路、幹線道路による交流が以前から行われている。</p> <p>三遠南信地域については、どの地域も県庁所在地から離れているため、それぞれの地域がもつ特性を活かしながら、地域振興のために交流事業が始まった。</p>	<p>三遠南信サミットを基点として、合唱やサークル活動などの交流の輪が年々広がってきている。</p> <p>平成17年度のサミットから始まった「住民セッション」の取組により、更に、圏域を越えた住民団体の交流が生まれてきている。</p>	<p>一層の交流を求める声がある。(市民・議会)</p>

【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) 結びつく (その理由) 交流が活発になることは、共通の課題を認識しあうことになり、協力し補完しあうことに結びつく。	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) 余地がある (その理由) 平成19年度は南信州地域で三遠南信サミットが開催されるため、これを契機として交流やネットワーク化を推進することができる。
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由) 本来は、飯伊地域の住民人口が適当であるが、指標が測定されないため、市民を対象とする。		他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)	(評価) 影響あり (その理由) 交流の拡大が図れない。
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由) 道州制の導入案が示される中、南信州地域が持続的発展をしていくためには、三遠南信・中京圏との交流は重要である。			(評価) 関連事業あり (類似事業名、理由) 活動分野によっては、三遠南信や中京圏との交流を推進する事業はある。しかし、効果的に推進していくためには事業を統合しないことのほうが良い。
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)	(評価) 必要ある (その理由) 住民活動団体をサポートする事務局的機能を果たす組織がない現段階では、行政が支援する必要がある。		他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)	(評価) 不可能 (その理由) 最低限の経費で行っている。
		効率性 評価	成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) 不可能 (その理由) 最低限の経費で行っている。	
		公平性 評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当である (受益者とその理由) 住民や活動団体。基本的には住民活動団体の自己負担である。	

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 現状維持	<p>市民の交流活動の把握を19年度に行い、実態を明らかにする。サミットの開催を契機として、新たな交流活動を促進する。三遠南信地域の活動支援を行う事務局的機能について検討する。</p>
<p>上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法</p>	<p>実態把握の方法に難しい面があるが、遠州地域や東三河地域と協力し、把握に努める。</p>

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	必要性がない	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？		

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	